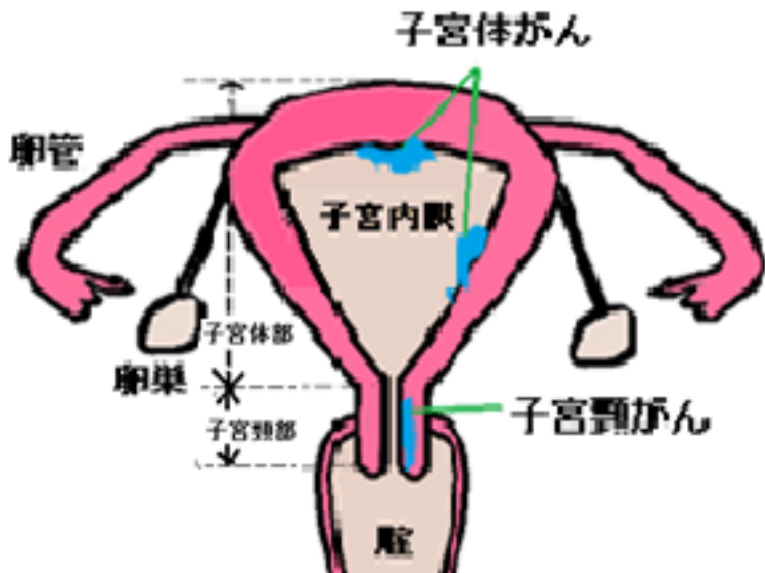


子宮頸がん検診



20歳代から子宮頸がん検診を積極的に受けることが大切

毎年、約10,000人が子宮頸がん罹患し、約2,800人が死亡しています。2000年以降20歳～30歳代の患者数が増加しています。子宮頸がんはほとんどヒトパピローマウイルス(HPV)の感染により発生します。性経験のある女性の感染率は50～80%で、約90%が自然に消失します。数%の人はウイルスの持続感染となり、数年から十数年で子宮頸がんへと移行します。

金沢市すこやか検診

対象は20～60歳までの女性です。20～30歳代の受診率が低いのに要精検率が高く、若い人の受診が望まれます。定期的に検診を受けていれば子宮頸がんで子宮を失うことはない、と言っても過言ではありません。子宮頸がん細胞診でクラス(II) (ASC-US 意義不明な異型扁平上皮)と判定された場合にのみHPV検査を行い、HPVが陽性の場合には精密検査(子宮頸部生検)を施行します。

左のグラフは子宮頸がん検診受診者数とがん発見数の推移です。平成18年度の受診者数の減少はこの年度から隔年検診になったためです。令和3年度の受診者数は6,719人(受診率9.5%)で、ASC-USが240人でした。子宮頸がんは2人見つかり、いずれも進行扁平上皮癌でした。

Kanazawa Cyber Hospital Plaza

子宮頸がん検診の受診者数とがん発見数

